

## オピニオン opinion

### そこが聞きたい 旧暦併用のススメ

2月16日は旧暦の元日。中国の春節をはじめ、東アジアでは旧正月を祝う国が多い。日本もかつてはそうだった。その旧暦が最近、見直されている。太陽暦と旧暦の二つの暦の併用を呼びかけている美学者(広島大名教授)の金田晋さん(79)に「旧暦のススメ」を聞いた。

—そもそも旧暦とは、

暦には大きく分けて太陽暦・太陽暦・太陽暦(旧暦)の3種類があります。約365・25日(太陽を一周する地球の動きを基準にしたのが、いま普通に使っている太陽暦(グレゴリオ暦)で、「新暦」と呼ばれます。約29・5日(地球を一周する月の動きを基準にしたのが太陽暦・月間暦)で活動するものが多く、西アジアの乾燥地帯などで使われています。太陽暦(旧暦)は太陽、地球、月の3者の運行を基準とする暦で、江戸時代まで使っていた「旧暦」もその一つ。幕末の「天保暦」は世界で最も精度の高い太陽暦(旧暦)と評判されました。

太陽暦と旧暦は複合して使われてきました。太陽暦は複合暦で、生活者にとって生活や労働がしやすい太陽暦(旧暦)のずれが出にくい太陽暦を組み合わせたものです。古くから中国や日本では国家制度の基本であり、その制定は権力の誇示でした。二つの暦の間には生じる日数の差は19年間に7回程度のずれを生じ、これを調整するために閏月(うるし)を挿入するなどの調整がなされてきました。東アジアをはじめ、農業を主産業とする世界各地で使われてきました。日本では明治5年(1872年)に「旧暦」を廃止し、明治6年(1873年)1月1日とす(「旧暦」を廃止)が公布されました。旧暦での生活や風習を一律に無くする性質を否定して、文明開化の一環として廃止されたといわれる理由も多かったのですが、実際は旧暦と太陽暦の二つを併用する旨の旨意が込められていた。公務暦の「旧暦」を削減する措置もこのためです。そ

## 日本の季節感残したい



美学者  
金田 晋氏

れとともに「神武天皇の即位紀元(紀元前660年を元年)」という非合理的な皇紀元を満り込ませました。これはその後の日本の国粋化を進めることになり、明治維新は功績ばかりが称賛されがちですが、失態も顧みる必要があると思います。

—その後、旧暦は顧みられなかったのでしょうか。

まったく忘れられたわけではないでしょう。現在でも農耕や漁業で古来大切にされています。お茶やお花の世界では使われています。二十四節気や「七十二候」も私たちの生活の中に入り込んでいます。今年1月、日本が大寒波に見舞われたのは「大寒」の時期でした。「立春」になっても寒波と寒波が繰り返す中、

しかし、一方では旧暦の日付を新暦に合わせたため、実態に合わない現象もみられます。例えば1月7日に「春の七草」を食しますが、本来は「春の七草」を食すのが見えてくる旧暦1月7日(今年には2月29日)に野草を採っていたのにちなんだ行事ですが、新暦に合わせているため、温度栽培の野草をスーパーで買わなければならぬ。七夕も本当は旧暦7月7日(今年には8月17日)の夜。ひこ星と織り姫星は夜空の高い位置にあって見やすいのですが、新暦はいつも梅雨空になってしまふ。もはや、私たちは「変だ」と言わねばなりません。

私は戦時下の時代に大阪で育ち、東京で長く学生生活をした後、30歳で広島に移ってきました。広島で畑を耕したりする中で初めて季節のリズムの大切さ、旧暦理にかなっていることに気づきました。冷蔵庫が発達し、真冬でも暖かい部屋を冷たいビールを飲んで……現代人、特に都市部で暮らす人たちは「脱暦」しています。文明の恩恵を受受するのはいいとしても、

かなたすむ  
1968年大阪府生まれ。東京大学博士。60年から広島大学教員、83年2000年同大総合科学部教授。東広島(山口県下関市)特任教授。蘭学館美術館(広島県呉市)を館長。旧暦のあそびを「と」講演活動を続ける。

1 七十二候  
1年を24に分けた「二十四節気」をさらに3分割して、季節の変化を気象や動植物の動きで細かに言い表したものだ。いま時分ていえば、「立春」(2月4日)の後に「東風(こち)氷を解く」(4~8日ごろ)、「うぐいす鳴く」(9~13日ごろ)、「魚氷を出(い)ずる」(14~18日ごろ)となる。中国が起源だが、表現は日本風になっているものが多い。

2 潮力発電  
1日に2回起こる海の潮の満ち引きのエネルギーを利用した発電方法。フランスのランス発電所が有名。韓国でも導入されているため、コストは低いが、発電所を作り、維持する費用がかかるとされる。日本での研究開発は遅れている。

—旧暦は日本伝統の「工」な生活そのものですか。

「旧暦は日本伝統の「工」な生活そのもの」は、重要な点です。「旧暦」は旧暦の生命線です。最近の日本人は月を見なくなりました。高層ビルが建ち並び、照明も増えて月が見えにくくなりました。今年の1月2日は満月がいつもより大きな「スーパームーン」でした。31日は新月月齢が起きました。みなさんは月を見えていますか? 月の位置や動き、形は毎日変わっていて、基本を知れば、今日が何日か、今が何時か、だいたいわかります。

さらに「旧」の引力は、現代の最大の課題であるエネルギー創出のカギも担っていると思います。闇夜を照らすだけでなく、潮の干満に大きく関わっているこの力を利用した「潮力発電」は、フランスでは以前から実用化されています。日本では自然エネルギーとして太陽光発電が人気ですが、太陽は夜は出ない、天候に左右されます。確実に計算できる潮力をもっと活用してはどうでしょうか。私は普段、瀬戸内海に面した町で仕事をすることが多いので、潮の流れの速さを実感しています。化石燃料や原子力に比べ、設備の規模は小さくても、海に囲まれた日本では潮力発電の開発にもっと力をいれていいと思います。

### 聞いて一言

金田さんの専門は「美学」。現象学」という哲学的な思考から、暦という時間の中に隠された日本の生活の美的感動にたどり着いたという。最近では美学の核心に迫るテーマとして暦に引かれ、太陽暦と旧暦を併用する「バイカルンダ」を提唱し、普及に努めている。自身も、旧暦や二十四節気も表記された「日めくり暦」を愛用している。さまざま先人の知恵や習慣、格言に加え、運勢占いが詰まっている。「今日どんな日か」を考える指針として、実に奥深い。